

2 学力向上アクションプラン

横浜市立並木第四小学校小学校

令和8年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針



(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
＜わくわく どきどき みんなの笑顔＞ 自分らしさを生かし、学び合う仲間や地域と共に成長します	・相手の考えを受容しながら聞く力 ・相手に伝わるように話す力 ・伝え合うことで考えを深める力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○教育目標の具現化に向けて、子ども・教職員・保護者・地域が一体となり、「豊かな人間関係」を育み、信頼と愛着がもてる学校づくりを目指します。 ・子どもどうしが互いにつながり合う授業づくりを通して協働的に問題を解決する力の育成を図ります。 ・子どもが安心して自分らしく生活できる学級づくり・学校づくりを通して自他ともに人を大切にする心情と行動力を育てます。 ・多面的多角的な見方や考え方のできる子どもを育て、多文化共生の学校づくりとまちづくりを目指します。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	○子ども同士のつながりを深め、よりよい学級づくりを進めていくために「話す・聞く力」の向上を目指す。 ○児童の実態を踏まえ、仲間を大事にし、相手の考えを受容する聞き方ができる子どもの「具体の姿」を学年ごとに考え、それをもとに授業を考えていく。
担当	学習指導部

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

学力・学習意識ともに横浜市の平均を下回っている。生活意識では、「授業では、自分の考えを発表しているか」という設問で、学年が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。自分の考えが周りから受け入れられていると思える環境づくりと、相手の考えを受け入れることができる児童の育成が求められている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に、市の平均を下回る。基礎的な学習の積み重ねが必要と思われる。また、読み取りにおいては、目的に応じて必要な情報をとらえることが課題である。
- 算数科：「思考力・判断力・表現力」が、「技能」より下回る傾向がある。基本的な学力の定着が求められている。
- 社会科：「知識・理解」より「思考力・判断力・表現力」が下回っている。資料の読み取りについて力をつける必要がある。
- 理科：「思考力・判断力・表現力」が「知識・理解」、「技能」より下回っている。生活に根ざした理解や根拠が乏しい部分が見られる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析

- 各教科において学習意欲の向上が見られる。教科担任による指導体制のもと、児童の技能向上が見られている。
- 「思考力・判断力・表現力」では、事実や資料を基に考えたり、推測したりすることが苦手な傾向にある。根拠に基づいた自分の考えを形成する取り組みが必要になると考えられる。